

# 新十津川中だより

新十津川中学校  
学校通信  
発行  
平成 22 年 12 月 24 日

## 眼聴耳視

<げんちょうじし>



新十津川中学校長 高瀬裕二

空からの贈りものが舞い降りてきます。ピンネシリの指笛とともに、北国の冬はいつそう足を早めているように感ずる今日この頃です。

12月14日、ある中学校での講演会に駆けつけました。今年3月に北海道高等盲学校の校長先生を退職なされた、澤田勝昭さんの「見えない、『おやし』のつぶやき・・・大丈夫」という講演会。生まれつき全盲の澤田さんは苫小牧市樽前の生まれ。札幌の盲学校にてあん摩、マッサージ、指圧、はり、きゅうの技術を学び、滝川市男澤病院に勤めました。そして同じ下宿、滝川工業高校の友達にわからないところを教えてもらいながら、東京教育大学に進学して盲学校の先生になられたそうです。澤田さんは、

座右の銘などというものを持ち合わせない私ですが、「眼聴耳視（げんちょうじし）」ということばを大事にしています。と、体育館で見ているだろう、聴いているだろう生徒たちに語りかけます。

「眼で聴いて、耳で視る？」

新十津川中では集会時に、「話は、眼と耳と心で聴く」というのが生徒の合い言葉になっていますので、私は似たような言葉「眼聴耳視（げんちょうじし）」の不思議な響きに引きつけられてしまいました。

全盲の澤田さんは続けます。

「眼で聴いて、耳で視る」

眼で何を聴くのか…遠くの山をじっと視ているだけで、木の葉のふれあう音、小鳥のさえずりなど自然の息づかいが聞こえてきませんか？

耳で何を視るのか…話をしているだけで、その声の抑揚や口調、醸し出す雰囲気から容姿そして心を含め、その人そのものが見えてくるような気がしませんか？

人の心は、1に声、2に顔、3に姿に現れるといいます。

「眼聴耳視（げんちょうじし）」とは「聴けば見えてくる、視れば聞こえてくる」ということです。逆にいえば、眼で視るもの、耳で聴くものだけで、何事も評価してはいけません。……………と

<参考>学校便り 藻風通信 北海道高等盲学校 第5号 平成20年3月24日発行

生徒を輝かせ、その魅力を引き出すことは、生徒が力を伸ばし高まっていくことに、大きな影響を与えます。「眼で視るもの、耳で聴くものだけで、何事も評価してはいけません」、まさしく学校は「眼聴耳視（げんちょうじし）」そのものでなければならぬと考えます。

新十津川中学校には、保護者の皆さんや地域の皆さんなど、たくさんのサポーターがいらっしゃいます。そして、生徒たちをはぐくむという私たちの使命を支え、力を与えてくださっています。来年も、皆さんにご協力いただきながら、生徒たちと共に希望を語っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様、よいお年をお迎えください。

※WEBにて新十津川中学校の様子を発信しております。

WEB 校長室 青雲の志【<http://www1.odn.ne.jp/~aao32720/index.shtml>】